



「AUTOMATICA 2016」 大田区共同出展レポート

1. 展示会名称： AUTOMATICA 2016
2. 会 期： 2016年6月21日(火)～6月24日(金) … 各09:00～17:00 (4日間開催)
3. 会 場： メッセ・ミュンヘン A5 ホール 518 番
ミュンヘン中央駅から地下鉄で約20分。東京ビッグサイトの約2倍の展示面積
4. 概 要： 産業のトレンドである「インダストリー4.0」や「IoT」の最重要課題である自動化やロボティクスをテーマとした世界最大級の展示会。「地域中核企業創出・支援事業」の採択を受け、大田区企業の技術を訴求すべく4社と共同出展した。
5. 出張者： ① (公財)大田区産業振興協会 ものづくり・イノベーション推進課
ものづくり取引促進担当 主任主事 堀田 祐一(7/12記) … コーディネーター
② ハラ・インステテュート 代表 原 圭介 … 専門家(コンサルタント)

6. 大田区ブース出展社 および アンケート結果 (半年後に成果を再調査予定)：

企業名	展示品目	商談件数	継続案件	確率	出展効果
① ダイヤ精機(株) 地域中核企業	精密金属部品、ゲージ	18	3	17%	普通
コメント：	「日系自動車関連メーカーが来訪し、商談ができた(TO社、HI社、DE社等)」 「独メカトロニクス協会を通じて同業者とゲージの製造・販売の連携推進を協議」				
② 大田精工(株)	切削歯車	14	8	57%	高い
コメント：	「今後フォローアップすることで新たな顧客確保が可能と思われる」 「欧州企業との直接取引を更に増やしていきたい」				
③ ㈱川淵機械技術研究所	直動伸縮機構ロボットアーム	60	1	2%	高い
コメント：	「ロボットアーム製造IG社(独)と特許ライセンスを前提とした連携が狙える」 「独メカトロニクス協会の機関誌に当社ロボットが掲載されることになった」				
④ ツバメ無線(株)	超薄型スリップリング	24	10	42%	とても高い
コメント：	「ロボットアーム製造IG社(独)より研究開発依頼あり。図面・仕様を入手予定。」 「イギリスの既存代理店との打合せによりビジネス連携を強化できた」				
合計		116	22	19%	75点

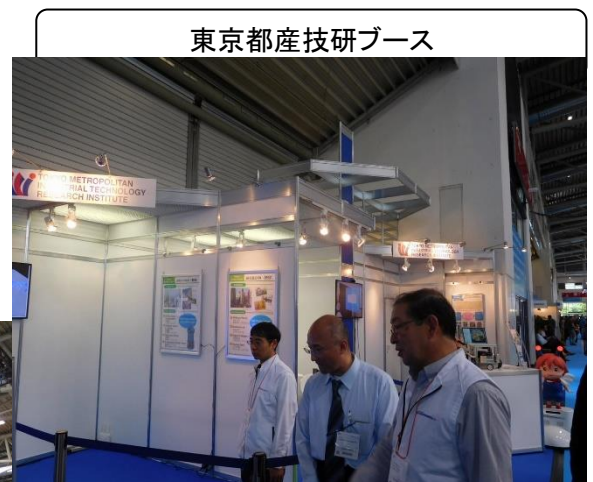
前年のCOMPAMEDの評価「68点」から「75点」に改善 ←

満足度：100点満点

上記4社のほか、平賀機械工業(株)がAUTOMATICAを視察した。次回は出展を希望。

7. AUTOMATICA 2016概要

- 各種自動化装置、サービスロボット、工業用ロボットの世界最大級の展示会。
- 前回から来場者が30%増加し、45,000人となった。
- 全体の1/3が海外からの来場者。海外からの来場者は前回から50%増加。
- 47か国から839社が出展した。(前回より16%増加)
- 「インダストリー4.0」が追い風となり、たいへん活況となった。
- 「inter solar EUROPE/EES」展と同時開催 (ソーラーパネル、二次電池の展示会)



東京都産技研ブース

8. 大田区パビリオン 写真集

大田区ブース全景



おかしな配線 ⇒ 修正



商談風景①



商談風景②



出展者による記念撮影(2016/6/24)



兵どもが夢の跡



9. 出展目的と成果

<出展目的①>

地域中核企業であるダイヤ精機が、欧米を始め世界各国の自動車関連メーカーの研究者や購買担当者との出会いを通じ、ゲージに求められる仕様のトレンドを掴み、世界のキーパーソンとのビジネス交流を目指すこと。また、エンドユーザーだけでなく、販路拡大に向けた代理店や、顧客満足度を上げるためのメンテナンス企業とのマッチングを図ること。

<現時点の成果①>

自動車関連メーカーもダイヤ精機ブースを多く訪れ、合計で 18 商談を行うことができた。継続の可能性が高い案件が 3 件あるため、刈り取りに向けて当協会と一緒にフォローする予定。特に JETRO が紹介してくれたメカトロニクス協会会員企業とはビジネス成立の可能性が高い。今回の出展を通じ、欧州と日本ではゲージを用いた品質管理の方法が異なりゲージ形状や求められる精度にも違いがあることが分かったため、見込客と製造・販売の補完関係を築き、それぞれの市場でプロモートしていけるよう折衝する。

<出展目的②>

FA 関連装置または関連部品メーカーの大田区企業と共同出展し、自社製品の高付加価値化を目指す欧州企業とのビジネス成立を目指す。

<現時点の成果②>

ダイヤ精機に加え 3 社の大田区企業と共同出展した。3 社計で 98 商談が行われ、内、継続の可能性が高い案件が 19 件あった。当協会が懇意にしている NRW 州の「Produktion NRW」ブースには 8 社が出展しており、訪問した際には 2 時間に亘り大田区企業との商談が行われた。また、メカトロニクス協会の担当者には、会員紹介冊子(175 社)の中から大田区出展企業にマッチングしそうな企業を何社もリストアップしてもらい、且つ同氏が今後の商談窓口となることを約束してもらった。その他、欧州最大のロボット・グリップのメーカーも大田区ブースに長時間滞在し、取引関係構築に向けた打ち合わせを行った。今回、中核企業であるダイヤ精機を中心に 4 社と共同出展したことで出展企業間の連携が深まったため、新たな製造ネットワーク構築にもつながるものと考えられる。

10. 大田区中小企業による欧州装置産業への参入の可能性について

大田区には開発力が高く、痒いところに手の届く中小の自動化装置メーカーが多く存在する。従業員数十名以下の中小企業がほとんどだが、これはセットメーカー側の製造技術部門が強いために 1～2 号機までしか納入できないことも理由の一つと考えられる。ロボットに関しては、日本はロボットメーカーとセットメーカーの両方が強く、双方の橋渡しの存在であるシステムインテグレーターのプレゼンスは大きくない。

一方、欧州では自動化装置メーカーは一定の機能に特化した大規模専門メーカーが多い。これらの専門メーカーが小ロット・カスタム機を受注した際の「開発アウトソーシング」請負や、「知的財産のライセンス」のようなアプローチが大田区企業にとって有効と思われる（直接ユーザーに売り込むのは難易度が高い）。今回の出展もそのようなビジネスのきっかけとなるよう、フォローしていきたい。

11. 出展総括・所感

イギリスのEU離脱が決定的になったり、サッカーの「EURO」が開催されていたり、賑やかな時期の出張であった。AUTOMATICAには初めての出展であり心配もあったが、期待どおりの盛況感・規模の展示会だった。名立たるFAメーカーが周到な準備の上で出展しており、ビジネスの刈り取りの場としての真剣度合を感じる。

展示会前日（6月20日）には、①ケーブル配線が丸見え、②展示台のフェルトが貼られていない、③グラフィックが貼られていない、④モニターがUSBメモリーから再生できない…といった不具合が発生したが、主催者であるメッセ・ミュンヘンが現場で迅速に対応してくれたため、すぐに修正することができた。海外見本市の委託先選定においては、見積額やデザインに加えて、現場における運営信用度がたいへん重要である。

会場では日本企業である安川電機、デンソー、川崎重工などが巨大ブースを展開していたが、中でもファナックのブースは最大規模で、東京ビッグサイトのホール1つを全部使っているような規模であった。半導体、液晶や家電といった産業分野でアジア諸国の後塵を浴びる状況になった日本企業だが、装置類ではアジアの中でまだ優位に立っている。ただ、日系「中小企業」の出展者は少なく、その分、大田区ブースが目立つ形となった。大手(日系)メーカーを中心に数多く来場していただき、商談を行うことができた。(東京都立産業技術研究センターもB4ホールにて出展)

日系メーカーに比べて、欧州の装置はカラフルで見た目がとても綺麗である。工場内使用の製品とは言え、展示会場での訴求力アップという面から見習う点があると思われた。更に、欧州製の製造装置は日本製を技術的にも凌ぐ部分も多い(大田区企業談)。それら競合他社の製品を見て開発方針やビジネス連携などの経営判断に生かしてもらうべく、次回(2018年)も大田区共同出展する場合には、出展企業だけでなく視察者も募りたい。

今回出展した大田区の4社の内、装置そのものを手掛けているのは川淵機械さんだけであったが、同社の展示台の前には常に人だかりができていた。部品・加工業の3社の中では、応用例を示した展示をしている企業に比較的来客が多かった。彼らにとっては他の出展者(装置メーカー)が見込客であるため、2日目からはサンプルやカタログを手に会場内で積極的に営業活動を行っていた。

今回はJETROのご厚意により、NRW州やメカトロニクス協会との事前アポが得られ、ドイツ語のPR資料も用意してもらった。JETROデュッセルドルフの所長もご来場され、その流れでミュンヘン総領事にもお越しいただいた。今後も継続的にJETROのサポートを得られるよう、連携を深めていきたい。

今回、大田区の出展各社はそれぞれ交渉の入り口に立つことが出来たが、言うまでもなく成約に向けては出展後のフォローこそ重要である。各企業が海外取引を自主的に行える体制を構築できるまでの間、連携機関の協力も仰ぎながら条件交渉や貿易面などのサポートを行っていく。また、成果の見える化に繋げるため、成約内容などのヒアリングも随時行っていく予定。